

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の系統性を考え計画的に実施する。</li> <li>家庭学習の充実を図るため「ゆめっ子学習」をさらに充実させる。</li> <li>日々の授業を充実させるため、学年での教材研究を工夫します。</li> </ul>	<p>朝学習は、週に3回を原則として計画的に実施したが、系統性をもった実施には至らなかった。次年度は、学年研の時間を増やすことで学年内の指導法の工夫、教材研究の充実を図り、児童が課題意識をもてる授業づくりを目指す。</p>	
豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ指導を学校生活の様々な場面を通して、全職員で指導するようにします。</li> <li>人権教育を充実させ、年間を通しての取組や人権週間重点的に取り組む活動を分け、計画的に行うことにより自他を大切にすることを育てる。</li> </ul>	<p>挨拶ができる児童が少しずつ増えていると感じられるが、まだ定着しているとはいえない。次年度は、地域と連携し挨拶運動のポスター作成等まちぐるみでの活動に広げていく。人権教育については、次年度人権教育推進校として、中学校と協力して9年間の視点を持って取組を考えていく。</p>	
健やかな体	<p>①「早寝・早起き・朝ごはん・すっきり歯みがき」合言葉に規則正しい生活をする姿勢を培い、自らの生活を振り返り学校保健委員会やカードに記入し継続的に取り組む。②一校一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、集会活動を通して体力の向上に励む。③栄養士と連携しながら食育に関する指導を行う。</p>	<p>年間を通して「縄跳び」の取組を行ったが、子どもたちが意欲を持って継続的に取り組む姿に結びつけることはできていない。子どもたちの体力の実態を再度とらえ直し、継続的に意欲を持って取り組むための工夫を考える。たとえば中休みの活用や音楽を流すなどの工夫などでさらに継続的、計画的に実施していく。</p>	
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力学習状況調査を有効活用する。そのために、新年度に学年で分析する時間をとり実態を把握し年間の具体的な指導につなげる。学術のデータを共有ホルダーに入れ、いつでもだれでも活用できる環境を作る。</li> <li>教材・教具を活用しやすいように既存のものを整理し、教材を活用した授業を行う。</li> </ul>	<p>学力学習状況調査の結果を活用できるように、共有ホルダーに学力状況調査の結果を入れ、学年で実態の把握をしたが、まだ学習指導に十分活用しきれしていない。次年度、学年研を充実させデータの活用や教材・教具を活用した授業の展開を考える時間を確保する。</p>	
児童指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめアンケートやYPAアセスメントを活用し、個の理解とよりよい学級経営に生かす。</li> <li>課題のある児童の情報共有を促進し、職員全体で同じ方向を向いて指導にあたるようにする。</li> </ul>	<p>いじめのアンケートやYPAアセスメントで学級の実態を分析した。また学級指導に有効に生かすことができているので学年研で学級の状況を共有し、早期発見、早期対応ができるようにする。そして、学年からブロック、児童指導部会、学校全体とチームで対応できるようにチームで動いていく。</p>	
保護者地域住民との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者と学校との連携を密にするために、どんな懇談会にしたらよいかを考え、保護者と連携していく。</li> <li>各学年の学習活動に地域の材を活用した内容を計画的に実施し、学校が地域やまちに積極的に関わられるようにする。</li> </ul>	<p>今年度学年に応じたテーマを決め、保護者が興味をもって懇談会に参加できるような工夫をした。職員全体が地域の材を生かした授業をする意識がもてるよう、次年度は校内の分掌も立ち上げ、さらに地域と関わりあえるようにする。中学校とも連携し、中学校の教員による出前授業など小中連携も図っていききたい。</p>	
人材育成・組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究・研修部が中心となり、校内研修、校内重点研の研究授業、そしてメンターチームによる研修会などで、より実践的な研究・研修を行っている。</li> <li>主幹教諭が中心となり、各組織をチームとして動かし組織を機能化させる。</li> </ul>	<p>メンターチームをはじめとし、まだまだ校内の研修が充実しているとはいえない。次年度は研修を計画的に組み入れる。また、重点研も1人1回以上研究授業をすることで、教師の授業力を向上させる。</p>	
ブロック内相互評価後の気付き	<p>小中合同ブロック内授業研の中で、卒業した児童の様子からめざす子ども像の共有やお互いの教材、指導方法などについて意見交換ができた。教務主任、専任部会では授業研が小中の共通のテーマはあるものそのそに向けての授業、研究会になっておらず情報交換のみになっているため、実施の方向について練っていた方がよいとの意見が出た。音楽会や運動会に中学校の生徒がきてくれたのはよかった。次年度管理職の話し合いの場を設け、より計画的な交流を実施していきたい。</p>		
学校関係者評価	<p>子どもたちの心を育てるためにも道徳教育に力を入れてほしい。身近なところにも子どもたちに伝えるべきことがたくさんある。教室以外の場で行う学習をつなげていくと教室での学習がさらに生きた力になる。教師のコミュニケーションの力をあげて、個人で行った様々な情報を共有化すると学校全体に広がり、学校全体の力がついていく。教師が意思統一を図り、方向を定めて進めてほしい。子どもたちの挨拶については、1人ではなかなかできない学年などの集団でいると自然に声を出すことができると思う。集団の力をうまく生かしてほしい。そして、子どもに求めるだけでなく大人からも進んでおこなってほしい。地域を巻き込んで行うことは大切だと思う。</p>		
学校経営中期取組目標振り返り	<p>まちとのかかわりを大切にしている子どもの育成については、地域とのかかわりを大切にしたい取組を行い、ある程度の成果は得られている。子どもたちの学力をつけ心を育てることについては、単発的な取組になってしまいがちで、年間を通して全職員が意識的に行ったかとなると自己評価からは、それが見られないという結果となっている。そこで、次年度に向けて、学力と心を育てることに力を入れた授業づくりを行っていきたくと考えている。「認め合い、支え合い、高め合う子ども」それを授業で実現する。子どもの発言を「つなげ、広げ、深めていける」授業を年間を通して考え、実行することで学力と心を育てることが両立できると考える。</p>		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	<p>①児童が授業に集中して学習に取り組めるよう、児童が話をしっかり聞くことを教員が意識して指導を行う。②学習スタンダードを作成し、学習のルールを全学年で統一して指導を行う。③3年生以上の学年で算数の少人数指導やTTによる授業を行い、個に応じた指導の充実を図る。④家庭学習の習慣を身に付けるため「ゆめっ子学習」の推進を図る。</p>	<p>①児童の話を聞くという態度は育ってきている。朝会等で態度に良い変化が見られてきた。②学習スタンダードを意識して指導しているが、まだ全クラスの徹底まではいかない。③少人数、TTによる授業は効果的であったが、まだ工夫の余地がある。④家庭学習の習慣はついてきたが、基礎学力の底上げをするにはさらなる工夫が必要である。</p>	
豊かな心	<p>①学校行事に「交流」の視点を設定し、学年、異学年、地域等と関わる取組の推進を図る。②児童の人権意識を育てるため、人権教育実践推進校として「人とのつながりから学び、自分も他の人も大切にできる授業」をテーマに授業公開をする。③校内教室配置を変更し、ペア学年の教室が各棟で上下とすることで異学年での交流の日常化を図る。</p>	<p>①総合的な学習の時間では、地域の材を活かし地域の方と関わりをもつ中で、相談に行ったり、調べたことを他学年に伝えたりすることができた。②日々の授業から学習スタンダードを意識しながら自尊感情を育成できるようにしたが、クラスの実態によって学習スタンダードの実施に差がある。また、2年生は個別支援級との交流給食を行い、他者意識が育ってきた。学校全体では、人権意識が十分育っていないので、今後も取り組みを継続していく必要がある。③校外学習、行事などで交流をする際、移動はしやすかった。ただ、日常化までは至らなかった。</p>	
健やかな体	<p>①「一校一実践運動」に「縄跳び」を取り上げ、通常の体育科の指導に加え、集会活動等を通して体力の向上を図る。②「早寝・早起き・朝ごはん・すっきり歯みがき」合言葉に規則正しい生活をする姿勢を培い、自らの生活を振り返り、学校保健委員会や元気カードの記入など継続的に取り組む。③栄養士と連携し「食」に関する指導を行う。</p>	<p>①計2回の長縄集会を実施した。集会に向けて意欲的に練習に取り組む姿が見られた。「体力の向上」の視点からは、長縄に偏った取組を改め、長期的なプランニングをしていく必要がある。②健康指導・保健学習・学校保健委員会や夏・冬の元気カレンダーなど、家庭と協力して実施した。③「食」に関する指導では、全ての学年で実施できたとはいえない。引き続き、系統的に実施していく。</p>	
教育課程	<p>①横浜市学力・学習状況調査結果の分析をもとに、学年の実態に応じた学力向上の取組を推進する。②生活科、総合的な学習の時間を中心に地域の材を生かした教育活動の推進、充実を図り、学校の強みを生かした教育課程の作成に取り組む。③縦割り活動の見直しを行い、異学年による交流を充実させる。</p>	<p>①朝学習や家庭学習が学力向上としての効果的な取組とならなかった。来年度は朝学習の在り方について見直し、検討していく。②一部の学年で学習の足跡を残すことができた。③年間を通じた縦割り活動の充実を図ったことで縦割り班での活動に深まりが見られるようになった。</p>	
児童指導	<p>①情報共有とスピード感を持った対応を心がけ、全教職員で全校児童を支援する。②児童支援委員会を中心に、児童情報の共通理解を図り、教職員が同じ方向性をもって指導にあたる。③西部事務所や区役所、児童相談所、警察等、関係機関との連携を図る。④川島小学校スタンダードを指針として、具体的な場面を通して児童指導を行う。</p>	<p>①起きた事案に対して速やかに委員会を開催して対応を考えた。全教職員で情報を共有し、児童の支援にあたった。②委員会で児童の実態をもとに指導方針などを話し合い、共通理解のもと指導に当たった。③外部機関には、必要に応じて相談したり、定期的に報告をしたりして連携を図った。④スタンダードが十分浸透していないように感じられる。全職員で共通理解をしていく。</p>	
特別支援教育	<p>①児童の実態や困り感、保護者の願いに寄り添った個別的教育支援計画を立て、継続的な支援ができるように校内委員会を整備し、児童一人ひとりに寄り添った丁寧な指導、支援を推進する。②かがやきルームでの取り出し授業の精度を高め、個に応じた指導、支援の充実を図る。③ユニバーサルデザインを意識した学習環境の整備を図る。</p>	<p>①個別の支援計画、指導計画を立て、年に2回見直し、一人ひとりにあった支援を推進することができた。②保護者の理解のもと、取り出し授業においてそれぞれにあった学習を進めた。③ユニバーサルデザインを意識していたが、具体的に見えてきたものは少なかった。</p>	
いじめへの対応	<p>①いじめアンケートや「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を活用し、児童理解と学級経営に活かす。②児童支援体制を確立することで組織的な情報共有、対応方針の共通理解を図り、いじめの防止に努める。③教職員がアンテナを高く張っていじめの実態把握に努め、状況に応じて関係機関と連携して解決を図る。</p>	<p>①アンケートやアセスメントは、結果を数値化するなどして、児童指導や学級経営に生かせるようにした。アンケートをもとに指導方法を学年ごとに考えた。②毎月の児童指導委員会で情報を共有し、いじめ防止に全職員で取り組めるようにした。③いじめの疑いがある場合にも委員会でも共通理解し、実態の把握に努めた。事案によっては、区役所、児童相談所等と連携して対応した。</p>	
人材育成・組織運営	<p>①校内研修、重点研究を充実させ、教員一人ひとりの授業力向上を図る。また、ミドルクラスを組織のリーダーとすることでレベルアップを図る。②教職員の負担軽減を図るため、グループウェアの導入や会議の精選を行う。③主幹会議を定期的に開催して校内状況の情報交換を行うとともに、主幹教諭が中心となって各組織を機能的に動かす。</p>	<p>①校内研修、重点研は一定の効果があった。共同研究のよさが日常的に見られた。②グループウェアを導入したが、会議や打ち合わせ等の効率化の意識には課題がある。引き続き意識の向上に努めていく。③効果的に機能した。各部会からの意見の吸い上げや意思決定が十分に機能した。</p>	
ブロック内相互評価後の気付き	<p>運動会や校内音楽会で中学校の吹奏楽部やギター部に演奏してもらったり、陸上部に体育大会の指導をしてもらったことで、本校児童にとっては中学生の演奏レベルの高さや「部活動」の概要を見ることができてとても有効に感じた。教員にとっても卒業生の現在の姿を見られることで9年間のつながりをイメージすることに繋がっている。また小中合同の授業研究会を通して、教科等で地域の児童・生徒に身に付けさせなければならぬ力が明確になった。次年度に向けて、中学校区の児童生徒に求められる資質や能力を意識した授業実践が必要になってくると思われる。中学校区の校長先生・副校長先生のご指導を受けながら、全教職員で同じ方向に向かって児童生徒の指導に当たる必要がある。</p>		
学校関係者評価	<p>様々な変革で学校はよい方向に進んでいる。子どもたちがよくなってきていることを感じるので、今後も校長がリーダーシップを発揮して取組を積み重ねてほしい。具体的には、挨拶ができる子どもたちになってほしい。全体的には挨拶ができるようになってきていると思うが、する子としない子との差が激しい。もっと進んで挨拶ができるようになってほしい。ただ、子どもにだけそれを要求するのではなく、まずは大人がその姿を見ることが大切である。それには、PTA、地域の意識を高めることも大切。地域・保護がつながる今年度の取組「保護者参加型授業」はとてもよかった。今後も地域のことが好きになってくれる子どもたちを育ててほしい。</p>		
学校経営中期取組目標振り返り	<p>「認め合い、支え合い、高め合う子どもの育成」をテーマに、学力と心の育成に取り組んだ。学力の向上に関しては、一定の成果は見られたものの、基礎・基本の定着に個人差があるため、高め合う学習のレベルまで達していない。次年度は朝学習の時間を有効に使い、家庭学習と連動させながら基礎・基本の定着を図っていく。心の育成では、成果が見られた。たてわり班活動が異学年交流を進めることに効果的であった(なかよし班活動・ゆめっ子運動会・ゆめっ子音楽会等)。総合学習の取組は学校と地域との結び付きをより強いのにした。更に、活動を通し児童の他者意識を育むことができた。次年度も引き続き、この取組を推進したい。</p>		

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力			
豊かな心	c6		
健やかな体	c7		
教育課程	c1		
児童指導	c9	c2	
特別支援教育	c3	c10	
いじめへの対応	c11	c4	
人材育成・組織運営	c12		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り			